姫西 SSH通信

vol.10　2025.3

【 第十回高校生国際シンポジウム 】

発表会場：中央公民館

2月19-20日の2日間にわたって「第十回 高校生国際シンポジウム」が宝山ホール（鹿児島県文化センター）で行われました。高校生国際シンポジウムとは全国で進められている課題研究、探究活動の発表会及び審査会です。その他、各界をけん引する方々による基調講演や交流会、進路に関する座談会など直に本物に触れることができる二日間のプログラムです。姫路西高校からは2年生普通科1チームがポスター部門で発表を行いました。

以下に参加生徒の感想を掲載しています。　　HPはこちら→

ポスター発表の部　：化学・生物学・環境分野
テーマ「 沈殿を用いたダニエル電池のイオンの動きの可視化 」

［アブストラクト］

中学理科でも扱われるダニエル電池だが、目に見えないイオンの移動が起こっているので生徒は自らそれについて考察することが難しい。そこで私たちは従来のダニエル電池の両水溶液の間に水酸化バリウム水溶液を入れた電池を考案した。これにより、硫酸バリウムと水酸化亜鉛の沈殿が生成して硫酸イオンと亜鉛イオンがそれぞれ移動したことが可視化することに成功した。

2年3組　下林　礼

僕は今回の高校生国際シンポジウムに参加して多くのことを学びました。特に印象に残ったのは、『失敗の前に「出来ない」の状態がある』という言葉です。探究などでは成功するために多くの失敗を経験することになりますが、失敗する以前に出来ないことがあるならそれは努力して出来るようにならなければならないということです。いろんなことに挑戦することは大切ですが、もっと突き詰めてみることも大切だと思いました。また、他校の発表を見て、対象を観察してきた時間や実験の試行回数がとても多いと感じました。西高では探究に割ける時間が少ないですが、探究中に新たに出来た疑問等を解決していって、より良い探究にして欲しいと思いました。

2年5組　三宅　哲史

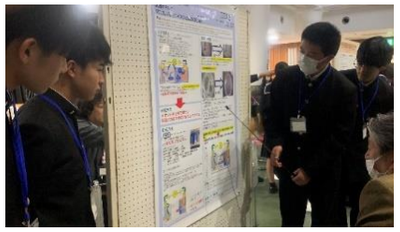
今回高校生国際シンポジウムに行って探究活動の大切さに気付きました。大学教授の話しの中にもありましたが生きていく中で失敗してそこから這い上がって成功にたどり着く事が大切だそうです。失敗があるので成功があります。普段の学校生活ではあまり失敗は経験しませんが探究は失敗の方が多いと思います。しかしそこから改良することでより良いものになります。それを続けるためには自分のテーマに愛情を持つことが大切です。そしてその愛をアピールするとより相手に伝わります。今一度自分のテーマに向き合ってみてください。

2年1組　濵田　拓杜

僕が今回高校生国際シンポジウムに行って得たことはたくさんの人と出会い刺激をもらえたことです。自分が発表をするだけでなく同世代の子の発表を聞いたり審査員の方々の講演を聞く機会を与えていただけました。このような特別な機会を与えていただけたことを本当に感謝しています。また僕が特に印象に残っていることは、みんな探究のテーマが自分の身近にあるものへの疑問だったり、自分の好きなものから立てていてそれを突き詰めていくだけでこんなにも人を感動させられるんだと感じたことです。

2年5組　髙尾　雄飛

シンポジウムで発表を聞く前は、テスト前に何でわざわざ行かなあかんねんと思っていましたが、行ってみたら案外良かったなと思いました。研究というものが少し分かった気がします。将来研究の道に行くかどうかは分かりませんが、研究者さんに強い憧れをいだきました。行って良かったなと後から思いました。



[引率教員より]審査員の先生方からいただいた講評の中で、特に印象に残ったお言葉を紹介します。

①「なぜ重要なのか」意義を明確に。どのような動機でこのテーマに入ったかが非常に重要。
　着眼点の面白さ。高校生らしさ。自分たちにしかできない探究（地域に密着する課題など）。
　自ずから出てきた問いに挑んでいるか。何が分かっていて何が分かっていないのかを明らかに。
　これまで誰も研究していない内容なのであれば、それはなぜなのか。
　面白くないから？オリジナルのポイントはどこか。
②「ゴールの設定」どのようにたどり着いたのかを述べる。
③「プレゼン力」他者を説得し、訴えかける声の質・身振り・手振り。どれだけインゲージさせるか（引き込むか）。
④批判は今後の糧にする。
⑤統計学は目に見えやすく評価しやすい。高校生がここまで踏み込んで取り組んだことが伝わる。
⑥新しいこと、面白いことは他者にはなかなか伝わらない。すぐに受け入れられるなら、既に他者に実行されているはず。

その他にも、大変参考になるお話をたくさん聞くことができました。
新２年生の皆さん、充実した探究活動を楽しんでください。